

リクエスト



河原 多恵子 (かわはら たえこ)

アナウンサー

岩見沢市生まれ。北海道女子短期大学体育科を卒業し、北海道放送(株)へアナウンサーとして入社、以降、数々の番組を担当。ラジオ制作プロデューサーを経て、現在は、HBC-R「多恵子の今夜もふたり言 (月～木23:30～24:00)」パーソナリティー。番組では毎週様々な分野からゲストを迎えてインタビュー。大人のトーク番組として聞かれている。趣味は運転・旅・本、街歩き、美術館めぐり。画家・片岡球子のファン。

聞いているラジオから好きな曲が流れるとボリュームをあげて一緒に口ずさみ、時には身体が勝手に動いて踊りだすこともある?こんな経験をお持ちですね。

「好きな曲を教えてください。リクエストをお待ちしています!」

ラジオでこう呼びかけてからこれまで、様々なジャンル、数えきれないほどのリクエストをもらって紹介してきました。昔はハガキや手紙でのリクエストでしたから、中には書かれた文字が達筆すぎて判読できず、生放送で絶句するなどということがありました。自分で書きなぐった文字が読めなくて沈黙してしまうのは、相変わらずなのですが?そして最近では、曲名や歌手名が難しすぎて・・・、「なんて読むの、これ!」と絶叫し、ディレクターがあわてて教えてくれます(笑)。通称「電リク」、電話リクエストが全盛だった頃を経て、今はメールやファクシミリ、郵便でリクエストが寄せられ、お応えしています。リクエストは新曲、ヒット曲、懐かしのメロディー、本来なら誰にも教えたくはない名盤・名曲、マニアックなものまで。そして、そこに書かれたメッセージを通して曲への思いを知り、胸が熱くなったり、涙がこぼれたりするのもしばしばです。歌には一人ひとりの物語があります。聞けば、うれしくもなる・切なくもなる、身近で大切なもの。

東日本大震災以降、ラジオに寄せられるリクエストには、絆、命、勇気、優しさ、鎮魂、家族や愛を歌ったものが多くなりました。その中に、「歌は心の力になれる」というメッセージも届いています。

あなたが今、もっとも聞きたいのは、何という曲でしょうか?

愚問

昔々、HBCラジオの「お昼の歌謡曲」というリクエスト番組を担当していました。

「ラジオから彼女の声が聞こえたら昼休み」

正午から始まる番組の第一声は、リスナーの皆さん

にとってお昼のサイレン代わりだったそうで、このことをしばらくたってから聞かされ、大いに感謝されました（笑）。この番組は生放送です。リクエストがあるとスタッフが記録室に走る・探す・見つける、そして曲を届ける。ラジオを通じて互いにボールを投げあう、つまりキャッチボールをしている感覚です。時には変化球を投げられ、初めて聞く曲名を頼りに音源を探す若手スタッフが、目的のLPレコードをようやく見つけて小躍り。でも、あちこちの棚をさわったので手が真っ黒になっていたということも。リスナーの皆さんとの「投げ合い／キャッチボール」は今も続いています。いつもワクワクします。直球や暴投もありますけれど、これからもぜひ受けとめていただきたいものです。

さて、研ナオコさんが歌った『愚図』がヒットしていた頃です。ある日、中年の男性からこの曲のリクエストをもらいました。「入院中の息子が好きなので聞かせてやりたい。そして、励ましてやってほしい」という依頼でした。早速、ラジオから『愚図』が流れ、「いつか公衆電話からのリクエストを待っている。元気になったら知らせてね」、こんな話をしたのだと思います、早く快復しますようにと願いながら。しばらくして、その中年男性から、少年が亡くなったこと、喜んで自分の好きな曲を聞いていたことなどを私たちは聞かされます。親がどうしてもかなえてやりたかった、息子の最後のリクエストでした。『愚図』は失恋の歌です。もしかすると、この少年は誰かにそっと恋をしていたのかもしれませんが。今でもこの曲を耳にすると胸がキュッとなり、彼が生きていたなら、息子のためにリクエストをしてくれた父親と同じ年代かそれ以上になっているのだろうと思いをめぐらします。これは私の大切な一曲です。

一行だけのリクエスト、数枚にわたって綴られた胸の内。寄せられ方は様々です。が、そこに託した真剣な思いに真剣に答えていくと、心に決めています。

祈り

八月になると必ず届くリクエスト曲があります。

「ざわわざわわ」の歌詞で始まる『さとうきび畑』は、森山良子さんや多くのアーティストが歌っています。心に染み入る名曲です。1974年、第1回広島平和音楽祭で美空ひばりさんが歌った『一本の鉛筆』は、反戦を静かに訴える曲として知られています。そしてもう一曲は、シャンソン歌手のクミコさんが歌う『INORI～祈り』です。昨年の大晦日、紅白歌合戦に初出場し、折り鶴をイメージした衣装を着てこの曲を歌いました。以前、クミコさんとのインタビューで曲について聞きました。『祈り』は、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった少女、佐々木禎子^{ただこ}さんに捧げた曲です。二才で被爆して十二才で短い生涯を終えた少女は、チラシや葉の包み紙で小さな鶴を折りながら、生きたいと毎日願ひ、家族のもとに帰りたいと願ひ続けました。その「祈り」が歌詞になっていること、この歌が伝える命や平和の祈りを、折り鶴を折るように心を込めて大切に歌っていくと語ってくれました。

八月は祈りの月。今年は、この言葉を一層深く受けとめる夏です。



2011 札幌の夏